

令和3年度柏原市立歴史資料館等運営協議会

会 議 録

日 時	令和3年7月21日（水） 午後2時～3時40分
場 所	柏原市立歴史資料館研修室

会議出席者

委員

塚口義信、綿貫友子、櫻澤 誠、橋本早知子、中野 武、

山川 薫

渡辺宏治（欠席）

事務局

新子寿一（教育長）、福島 潔（教育部長）、寺川 款（教育部
次長兼文化財課長）、安村俊史（歴史資料館館長）、越智勇介（歴
史資料館学芸員）

1. 開会（14時）

進行・安村

2. 新子教育長あいさつ

3. 委員紹介

4. 事務局紹介

5. 議事

①令和2年度 事業報告

（1）歴史資料館関係 安村報告

（2）横穴管理運営関係 安村報告

[資料参照]

【質疑】

○入館者数について

委員：新型コロナウイルス感染防止で、各施設が苦戦されているなか、9,000人以上の入館者数は大健闘と言っていいのではないか。

○横穴の維持管理について

委員：台風で損壊した横穴の補修、管理が十分に対応できていないということであったが、なぜ対応できていないのか。

事務局：一番の理由は技術的な問題である。大きく損壊している部分の土砂を取り除くと、さらなる損壊を引き起こす恐れがある。大規模な保存工事となると、費用などの問題も発生する。どのような対策を講じればいいのか、まだ結論が出せていないのが現状である。

○回想法の利用について

委員：高齢者問題への対応として、回想法の利用を行っている博物館等があるようだ。当館でも民具の展示を行っているが、先進的な施設の方法を取り入れて工夫してみてもどうか。

事務局：回想法の実践については理解している。当館も年1～2回実施している。しかし、当館から積極的に働きかけはしていない。今後、検討していきたい。

○マスコミとのタイアップについて

委員：企画展の開催に際して、マスコミとのタイアップ等を積極的に取り入れてはどうか。

事務局：マスコミとタイアップした企画展は当館の規模ではむずかしい。ただ、昨今はマスコミとの関わりは増加しており、テレビ・新聞等への掲載も多くなっている。

○末吉康三郎家文書について

委員：末吉康三郎家文書の整理について、所蔵者から依頼されて整理をした結果、別の施

設に寄贈となったいきさつについて説明してもらいたい。

事務局：他の施設で整理を引き受けるところがなかったため、柏原船関連史料を含んでいるということで、当館ですべての史料を整理することにした。目録の刊行まで終えたので、所蔵者に返却することになったが、所蔵者が大阪市史編纂室に寄贈したいという意向だったので、その考えを尊重して市史編纂室への寄贈の仲立ちをした。当館で整理したものが他施設に寄贈されることに納得できないところもあるが、所蔵者の意向なのでやむを得ないと判断した。

○安福寺所蔵夾紵棺の扱いについて

委員：聖徳太子 1,400 年遠忌に伴って、聖徳太子の棺の一部ではないかとされる安福寺所蔵夾紵棺を、今後柏原市としてどのように対応していくのか。現在、市指定文化財であるが、更なる指定等の予定はないのか。

事務局：現在は市指定文化財として当館に寄託され、当館で保管している。今年は奈良国立博物館、東京国立博物館、太子町竹内街道歴史資料館、来春に当館でも展示を予定している。聖徳太子の棺の可能性が高いと考えられているが、断定できる資料がない。今後、聖徳太子の棺の一部と断定できれば、重要文化財になってもおかしくない資料だと考えている。

○火災への対応について

委員：火災への対応については十分であるのか。防火用水の水圧が低いなどの事例もあるようだが大丈夫か。

事務局：毎年、消防署の立入検査をうけ、消防点検も年 2 回実施している。必要な準備は行っている。火災だけでなく、災害時の避難所にもなっているので、緊急時の対応について、職員間で改めて確認することを予定している。

○防災教育について

委員：市民や学校への防災教育の重要性が注目されている。防災教育を行うのは、資料館の役割でもあると思うが、どのように取り組んでいくのか。

事務局：市民から自然災害に対する質問や問い合わせが多くなっている。また、災害に関する講演依頼などが、市内だけでなく、市外からも増加している。今後、積極的に取り組んでいく必要がある分野だと考えている。

○地域の伝承等について

委員：昨年の大県誕生 1,300 年の取り組みは、市民が新たな歴史に触れることができたいい機会だったと思う。このように地域に結びついた歴史・伝承を積極的に収集、公開してもらいたい。

事務局：大県 1,300 年は、市広報紙で 4 頁の特集を組んでもらい、市民からの反響も大きかった。それ以外にも地域の伝承等は意識しているが、積極的に集めることはできていない。

③令和3年度事業計画

(1) 歴史資料館関係 安村報告

(2) 横穴管理運営関係 安村報告

[資料参照]

【質疑】

○『柏原の歴史』について

委員：本来は『市史』の刊行に取り組むべきではないかと考えるが、『柏原の歴史』を刊行するということである。どのような書物とする予定か。

事務局：現在、『市史』を刊行できるだけのスタッフも予算も望めないが、これまで文化財を担当してきた職員が次々に退職することもあり、今のうちにせめてダイジェスト版としての書物を刊行しておきたいということである。写真やカラー図版を多用した、わかりやすい、市民に親しんでもらえるような書物となるよう考えている。『市史』は将来に託したい。

委員：中学生でも読めるような、わかりやすい刊行物となることを期待したい。

○横穴公園の活用について

委員：横穴公園を利用して、小学生が参加できるような企画を考えてもらいたい。

事務局：小学生向けの企画は十分にできていない。課題としたい。

委員：公園内のトイレが狭く、不便である。改善できないか。

事務局：史跡内なので、公園内のトイレの改善は無理である。

○『古事記』について

委員：『日本書紀』だけでなく、『古事記』も取り上げてほしい。

事務局：これまでも『古事記』については、必要に応じて取り上げている。日本遺産に関連して、神武即位前記の「龍田道は並んで歩くこともできない道だ」という記述などは、最近よく使っている。

○柏原の語源について

委員：「柏原」の語源は何か。

事務局：「柏原」の語源については、いくつか説があるが、決め手となる説はない。

委員：地名の語源はむずかしい。簡単に決められるものではない。たとえば、大和と河内に共通する地名が多いので、それに注目した取り組みなどは、おもしろいかもしれない。

○昔の写真活用について

委員：昔の写真を活用して、現在の写真と比較して解説するというような試みもいいのではないか。

○小中学校の副読本について

委員：小中学校の副読本はあるのか。そこで歴史はどのように記述されているのか。

事務局：副読本はあるが、歴史の比重はそれほど大きくない。大和川の付け替え等、柏原

市域の歴史関連の記述は、内容の確認を求められることが多い。

委員：地域の歴史の比重を大きくしてもらえるようにしてはどうか。

事務局：検討を求めたいと思う。

○大和川のつけかえの団体見学について

委員：大和川つけかえの企画展への来館小学校の地域性はどのようになっているか。賛成派と反対派の地域比率はどうか。当館で大和川のつけかえの実態を展示や講演などで訴えても、依然として中甚兵衛に特化した発言・記述などが多いのが残念である。

事務局：旧流域と新流域の地域比率はほぼ同数である。これまでも企画展などで付け替えの実態を理解してもらえるように取り組んできて、少しずつ浸透しているように思う。例えば、先ほども出ていた副読本作成の際に、相談に来られる学校が多くなった。地道に少しずつでも実態を提示していけば、やがて浸透していくと思う。あせらずに取り組んでいきたい。

③その他

事務局：特別議題はない。石田課長が退職し、越智が学芸員として採用された。新しい体制で臨むことになるので、今後ともご指導をお願いしたい。

議長：マイクを事務局にお返しする。

6. 閉会

(終了 15 時 40 分)